

施策評価シート

【施策の概要】

		登録者(課長)名【1】	生活福祉課長 伊田 昌行	
		主管課(関係課)【2】	生活福祉課	
施策名【3】		分野【4】	まちづくりの方向性【5】	
笑1-1 地域福祉の推進		だれもが地域で安心して暮らすために	笑顔で暮らすまちづくり	
概要	施策全体の課題【6】		施策実現へむけたキーワード【7】	施策の目標【8】
	少子高齢化や核家族化、単身世帯や高齢者世帯の増加などが進む中、地域における近隣関係が希薄化し、地域での支えあいも弱まるなど、市民を取り巻く生活環境や状況が変化しています。 本市では、これまで地域福祉計画に基づく福祉サービスを進めてきましたが、地域では、未だ多くの課題を抱えており、高齢者や障害者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、行政だけでなく地域を皆で支えるための、福祉体制の充実が必要となっています。 一方、これまで地域を支えてきたコミュニティなどでは、担い手不足が問題となっており、福祉人材の育成や地域コミュニティの再構築による地域福祉の充実などが課題となっています。		◆市民との協働による福祉のまちづくり ◆地域コミュニティの再構築による地域福祉の充実 ◆福祉に関するだれにとっても便利な情報の提供 ◆地域で支えあうための体制づくり	だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域で支えあう福祉のまちな実現をめざします。
	留意すべき点(都などの制度の変化・その他制約条件・社会環境の変化)【9】			
◇社会福祉法の改正などに伴い、「我が事・丸ごと」の地域共生社会づくりを推進することが求められています。 ◇市町村における包括的な支援体制を整備し、高齢、障害、児童等の分野ごとの相談体制では対応が困難な、世帯の中で課題が複雑化・複合化しているケース、制度の狭間にあるケースなど地域の中で孤立しているケースなどを確実に支援につなげ、かつ生活支援や就労支援等を一体的に行うことで、支援を必要としていた人自身が地域を支える側にもなりうるような仕組みづくりを行うことが求められています。				
事業群名【10】		事業群の施策上の位置づけ【11】		
1	地域福祉の関係機関や団体・地域との連携を強化します	市民同士が地域でのつながりをつくりながら、支えあう意識が向上できる取組		
2	地域の特性を活かしたコミュニケーションの場の創出に努めます	だれでも気軽に集えて、世代を超えた交流もできる場づくり		
3	地域福祉を支える人材育成を進めます	多くの市民が関心を持ち、気軽に活動できる機運をつくり出すことや学校などの福祉教育、市民ボランティアの充実		

【施策の成果】

				年度	24	25	26	27	28	29				
成果指標【12】	指標1	名称	「地域で支えあう地域福祉の推進」に対する満足度	目標値	21%			単位	%					
		算出式・説明	だれもが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、市が行っている「地域で支えあう地域福祉の推進」の取組に対する評価を、市民意識調査の「市民満足度」により把握します。											
		実績値	17.5	17.5	17.5	18.6	18.6	23.3	達成率	83%	83%	83%	89%	89%
	指標2	名称	地域福祉推進員(ほっとネット推進員)の登録者数	目標値	400人			単位	人					
		算出式・説明	西東京市では地域の方で地域の課題を解決するためにほっとするまちネットワークシステム(ほっとネット)を展開し、地域における推進役として市民の方々にほっとネット推進員をお願いしています。ほっとネット活動を更に発展させるために、ほっとネット推進員の登録者数を増やすことを目標とします。											
		実績値	133	198	236	286	311	達成率	33%	50%	59%	72%	78%	0%
	指標3	名称	福祉サービス第三者評価の対象サービス実施数	目標値	85件			単位	件					
		算出式・説明	福祉サービスの質の向上のためには、事業者の提供するサービスの質を客観的な立場から総合的に評価し、その結果を「質を向上させるPDCAサイクル」に乗せることが重要です。それぞれの福祉サービスの質がより向上するように、第三者評価の受審サービス(事業)数を増やし、PDCAサイクルを回す事業数を増やすことを目標とします。											
		実績値	60	62	57	69	65	達成率	71%	73%	67%	81%	76%	0%
	指標4	名称		目標値				単位						
		算出式・説明												
		実績値						達成率						
達成率の平均値					62%	69%	70%	81%	81%	37%				

【市民意見】【13】

	24年度	27年度	29年度
満足度(%)	17.5%	満足度(%) 18.6%	満足度(%) 23.3%
満足度(平均ポイント)	-0.02	満足度(平均ポイント) -0.03	満足度(平均ポイント) 0.04
重要度(%)	71.5%	重要度(%) 74.3%	重要度(%) 72.9%
重要度(平均ポイント)	0.98	重要度(平均ポイント) 1.12	重要度(平均ポイント) 1.14

各年次の市民意識調査で、施策ごとの「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況【14】	<input type="checkbox"/> まだ未達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る	
		意識調査での満足度【15】	<input type="checkbox"/> 平均を下回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ平均 <input type="checkbox"/> 平均を上回る	
施策の成果と課題(取組成果や目標達成に向けた課題、成果向上・コスト削減策等)【16】		◇ふれあいのまちづくり事業では、隣近所がちょっとしたお困りごとをお互いに助け合う活動「ふれまち助け合い活動」を実施しています。ボランティアの登録者が103人、依頼相談の受付が85件、活動件数が56件と実績が上がっているが、今後さらに地域における認知度を向上させ、活動を活発にする必要があります。 ◇平成22年度から実施している「ほっとするまちネットワークシステム」は、平成25年度から地域福祉コーディネーターを4名に増員し、本格的な事業展開が始まっています。平成28年度には、総相談件数1,116件、地域で活動するボランティアである「ほっとネット推進員」が311人の登録を得ています。相談件数の増加に伴い、地域福祉コーディネーター4人での相談対応力には限界があるため、ほっとネット推進員の能力向上やリーダー的な推進員の育成などにより、地域福祉コーディネーターの活動に対する補助的な方策が必要となります。 ◇地域福祉情報の発信については、ホームページ等を中心に分かりやすい情報提供に努めていますが、援助を必要とする者に適切な情報が提供され、必要な支援が受けられるような仕組みを検討します。		
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化【17】	<input type="checkbox"/> 弱くなっている <input checked="" type="checkbox"/> 以前と同程度 <input type="checkbox"/> 強くなっている	
		意識調査での重要度【18】	<input type="checkbox"/> 平均を下回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ平均 <input type="checkbox"/> 平均を上回る	
今後の方針(具体的な事業群や事務事業を示しながら)【19】		◇「ふれまち助け合い活動」は、平成26年度から始まった新たな取組であり、徐々に活動を進めているところですが、今後は様々な広報手段を通じて、さらに市民の中での認知度を向上させるとともに、事業の実施方法等についても引き続き検討を続け、活動の活発化を図っていきます。 ◇「ほっとするまちネットワークシステム」については、市の地域福祉施策の中心として据えており、発展的に継続させていきます。スーパーバイザーによる事例検討の場など地域福祉コーディネーターの課題解決能力の向上のための支援を進めるとともに、ほっとネット推進員の登録研修や推進員向けの各種研修の実施など、ほっとネット推進員の発掘・育成に努めていきます。 ◇福祉情報の発信については、今後「ふれあいのまちづくり」や「ほっとするまちネットワークシステム」「生活支援コーディネーター」など、地域づくり、地域のネットワーク化を目的として事業についての検証を行い、より効果的・効率的な制度設計を検討することを予定しているため、この中で、支援を必要とする方に必要な支援・情報が届くような仕組みについても検討し、構築することを目指します。		
総合評価	施策内容の方向性【20】 施策実施コストの方向性【21】 施策実施方針【22】	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み		
		<input type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化		
		V 成果を維持しつつ、コストも現状を維持する施策領域		
説明【23】				
【一次評価後の事情変更等】				
総合評価	判断理由等【24】 施策実施方針【22】	施策内容の方向性【20】	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み	
		施策実施コストの方向性【21】	<input type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化	
		地域福祉の推進については、地域福祉コーディネーターを中心としたほっとするまちネットワークシステムの充実や、ふれまち助け合い活動などに取り組んできました。市民意識調査結果では、前回調査と比べ満足度・重要度ともに大きな変化は見られません。引き続き、ほっとネット推進員等、地域人材の発掘・育成を行うとともに、関係機関と連携した要支援者への支援体制の構築や情報発信に努めていくことが必要です。また、地域共生社会の実現に向けては、地域包括ケアシステムの構築に既存の地域福祉ネットワークを整理・統合しつつ、関連付けていく取組により、地域で支え合う仕組みとしていくことが必要と判断しました。		
		V 成果を維持しつつ、コストも現状を維持する施策領域		

【施策内の事務事業貢献度判定】

笑1-1 地域福祉の推進

事業群	名称【25】	担当課【26】	概要【27】
	地域福祉コーディネーターによる地域福祉の推進	生活福祉課	市内を4つの圏域に分け、地域の困りごと、福祉課題に地域住民自らが取組む際、各生活圏域ごとに配置された地域福祉コーディネーターが相談や地域の社会資源とのコーディネートにより課題解決をサポートする。市民ボランティアとして、問題解決のサポートや地域課題の発見など地域福祉コーディネーターと共に地域福祉を推進するほっとネット推進員を設置します。
	福祉サービス第三者評価制度の活用	生活福祉課	第三者機関による福祉サービスの評価を受けることにより、利用者がより適切かつ快適なサービスの提供を受けることができるよう活用を促進していきます。
	地域福祉権利擁護事業への支援	生活福祉課	判断能力等の衰えにより、通常の市民生活が困難となった市民に、金銭の管理や判断の補助、後見人申立の支援等を行うことにより、安心して暮らすことを目指します。
	福祉情報の提供方法の調査・研究	生活福祉課	市報やホームページ、エフエム放送など、多様な媒体による情報提供や情報を発信する際には、文字や図表に工夫を凝らした分かりやすい表現に努めます。
事業の合計			

総コスト(千円) : 評価年度【28】	事務事業の評価(直近)【29】		26市のサービス水準との比較【30】	施策における位置づけ【31】	貢献度【32】	
	事業費	人件費				
55,355	54,524	831	改善・見直し(平成28年度)	中	市と社会福祉協議会が連携し、活動しやすい環境整備に努め、お互いに支え合うしくみの形成を図ります。	A
43,616	39,461	4,155	拡充(平成23年度)	中	市と社会福祉協議会が連携し、地域で問題を解決できるような環境整備に努め、互いに支え合うしくみの形成を図ります。	A
10,608	9,777	831	改善・見直し(平成20年度)	中	事業所が第三者評価を実施することで、利用者が安心、快適な福祉サービスの提供を受けることができています。	A
35,115	33,453	1,662			市と社会福祉協議会が連携し、いつまでも安心して暮らせる環境整備に努めます。	A
831	0	831			情報の受け手を意識した、多様な媒体、わかりやすい表現を図ります。	B
145,525	137,215	8,310				